

■ 部局ニュース

「南極学術探検隊樺太犬訓練所」（稚内）の写真画像を 大学文書館で受贈

4月5日（月）、本学職員を介して、安藤久男氏から稚内市に設置された「南極学術探検隊樺太犬訓練所」に関する写真画像64点（1956年撮影）を大学文書館にご寄贈いただきました。

1956（昭和31）年初頭、第一次南極地域観測隊の西堀栄三郎京都大学教授から、南極観測に使用する犬ソリの準備のため、カラフト犬の訓練とソリの製作などの協力を求められ、「北海道大学極地研究グループ」が発足しました。同グループには、犬飼哲夫農学部教授（動物学）、楠宏低温科学研究所助教授（海洋学）、木崎甲子郎理学部助手（地質学）や本学山岳部員が加わりました。安藤氏は山岳部に所属する

理学部学生（1953年入学）として参加しました。

観測隊と極地研究グループは、「樺太犬訓練所」を稚内公園内の丘陵地に設置し、安藤氏ら若手がカラフト犬約40頭の訓練にあたりました。極寒と厳しい風雪の極地を想定した条件における生活の経験、ソリを牽いて走る訓練、チームワークの養成などです。受贈資料からはこうした訓練の様子がよく分かります。

1956年11月、訓練を受けたカラフト犬の内22頭が第一次南極地域観測隊と共に南極へ出発しました。観測隊の帰国に際しては悪天候等の理由から、カラフト犬は取り残され多くが犠牲とな

りました。この内、タロとジロの2頭が生存していたエピソードは有名です。

タロはその後、帰国を果たし、晩年を本学農学部附属植物園で過ごしました。現在、植物園はタロの剥製を保存しています。

また、安藤久男氏は1968～1970年の第10次南極地域観測隊の越冬隊メンバーとして南極に足を踏み入れています。

ご寄贈いただいた資料は、大学文書館で大切に保存し、利用に供して参ります。

（大学文書館）



安藤久男氏と、左からタロ、ジロ、サブロ



野外雪中生活を想定した片屋根式犬小屋



製作した犬ソリ



カラフト犬にソリを牽かせる訓練